

11/29 木

新型コロナウイルス感染の急拡大は、重症者増加で各地の医療機関がひっ迫するなど重大な局面です。有効な手立てを講じない菅義偉政権のもとで「人災」としての様相を強めています。専門家から「CO TO ブラベル」への批判が続出しているのに、首相は同事業の抜本見直しに踏み切らうとしません。検査・医療への支援も立たれました。菅政権は、今が感染爆発を抑止する正念場という危機意識があるのか。国民の命と健康、暮らしを守るために一刻も早く姿勢を改めるべきです。

GOTO 固執は変わらず

菅首相は27日の政府の対策本部で、札幌市と大阪市を出発地とする旅行で「CO TO ブラベル

主張

感染急拡大と首相

ル」の利用を控えることを呼びかけました。24日に函館市を目的地にする同事業の新規予約の停止を発表したばかりですが、出発も停止すべきだとの声が続出する中で、数日で修正に追い込まれました。

しかし、あくまで「直轄」の要

讀であり、利用するかしないかの

専門家が参加する政府の会議が

20日、感染拡大地域の適用除外を

見直し・縮小を求める意見も相次いでいました。ところが菅政権は、「CO TO」は感染を拡大させてしまうと言いました。

その指摘は後を絶ちません。「CO TO」の大規模見直しをせず、いよいよ首相が「この3週間が極めて重要な時期」と口にしても国民の心に響きません。全国一律の「CO TO」

判断は国民に丸投げです。感染拡大と重症者が増加している東京都について除外したままです。これで全国的な感染拡大を抑え込む効果が出るとは思えません。

そもそも菅政権の対応は遅すぎます。11月前半からの「第3波」を警戒する声は上がっていました。

人が活発に動くことを税金で後押しだす政策「CO TO」事業の見直し・縮小を求める意見も相次いでいます。この政府の姿勢が、感染予防に対する国民の意識の緩みにつながっている今の医療現場からの指摘は後を絶ちません。「CO TO」

提言したことを受け、やっと一部見直しを21日と表明したもの、この「CO TO」に固執する姿勢は変わません。政策の失敗を認めむの影響や被害にまで心を碎いたコ

ミュークーションを実施しなければならない」と提言しました。安倍晋三前政権の発信方法はあまりに拙劣でしたが、それでもコロナ

だけで直相記者会見を8回しました。菅首相はなぜ余見しないのか。リスクに際し、国民と語る言葉を持たない政権は失格です。

人が活発に動くことを税金で後押しする政策「CO TO」事業の見直し・縮小を求める意見も相次いでいました。この政府の姿勢が、感染予防に対する国民の意識の緩みにつながっている今の医療現場からの指摘は後を絶ちません。「CO TO」

の大幅見直しをせず、いよいよ首相が「この3週間が極めて重要な時期」と口にしても国民の心に響きません。全国一律の「CO TO」

提言したことを受け、やっと一部見直しを21日と表明したもの、この「CO TO」に固執する姿勢は変わません。政策の失敗を認めむの影響や被害にまで心を碎いたコ

ミュークーションを実施しなければならない」と提言しました。安倍

晋三前政権の発信方法はあまり

に拙劣でしたが、それでもコロナ

だけで直相記者会見を8回しました。菅首相はなぜ余見しないのか。リスクに際し、国民と語る言葉を持たない政権は失格です。

今年6月、政府の専門家会議の構成員は、感染拡大時の政府の情報発信のあり方に「広く人々の声を聴き、市民の暮らしに与え

は直ちに中止を決断し、苦境にある観光や飲食などの事業者を直接支えようと組み合わせた支援に切り替えるべきです。

菅首相がコロナで時間を取った

記者会見を一度も行わないことも

大問題です。富邸への出入りの際

に立ち止まり応じる取材でも、26